

令和 6(2024)年度ルーブリック評価結果概要

IR 推進室

1. 評価結果について

- ・3 学科、1 別科におけるルーブリック評価の最終評価について、全体的に在学中の学生の成長が観察されており、カリキュラムの基本的な構造について、致命的な問題はないと考える。
- ・各学科にて評価結果を確認し、カリキュラムや指導方針等について検討し、教育の質の向上に活用願いたい。

2. 提出状況について

- ・2025 年 2 月末までに評価を実施し、提出されたものについて集計を行った。

表 2-1 2024 年度各学科の提出状況（4 年には過年度生を含む）

	地域経営学科			人間健康学科			看護学科			別科助産専攻		
学年	在籍数	提出数	提出率	在籍数	提出数	提出率	在籍数	提出数	提出率	在籍数	提出数	提出率
1 年	72	65	90.3%	88	61	69.3%	44	44	100.0%	4	4	100.0%
2 年	76	69	90.8%	89	61	68.5%	43	43	100.0%			
3 年	85	71	83.5%	114	76	66.7%	64	59	92.2%			
4 年	94	86	91.5%	95	55	57.9%	64	64	100.0%			
全学年	327	291	89.0%	386	253	65.5%	215	210	97.7%	4	4	100.0%

3. 学科別評価結果

3-1. 地域経営学科

特徴の記述 尺度	4	3	2	1	0
会話の文法・語彙	十分意思疎通でき、長文でも文法が乱れることがなく、表現したいものに対して適切な言葉を使用できる	十分意思疎通できるが、時折文法が乱れる、もしくは語彙が不足している	短文や返事のための発話が多く、語彙も乏しいが、意思疎通はできる	短文や返事のための発話が多く、語彙も乏しく、意思疎通できない場面があるが、会話はできる	左記に該当しない
雑談する力	雑談の中で興味を持てる点を自発的に発見し、自身と相手の興味を引き出しながら楽しく雑談を継続できる	相手に合わせて楽しく雑談できる	雑談を続けられるが、楽しい	雑談を避ける、もしくは雑談に必要な基本的な態度（声量・表情・姿勢）を示せないが、雑談の場に留まることはできる	左記に該当しない
社会課題の発見力	自ら社会課題を発見し、かつ課題に関係する情報を自ら収集・分析し、検討している	自ら社会課題を発見するが、批評にとどまっている	一般的な社会課題に対して興味関心があるが、自ら課題を発見することはできていない	社会課題に関する興味が乏しいが、話を聞いて共感することはできる	左記に該当しない
地域への理解	地域の産業構造・地理・歴史・文化について、固有名詞や専門用語を含みながら具体的に議論できる	一般的に認識されている地域の特色を一通り理解し、地域について議論することができる	一般的に認識されている地域の特色を理解していない	地域に対する理解や共感が乏しいが、地域について知ることを拒否はしない	左記に該当しない

(1) 全体評価

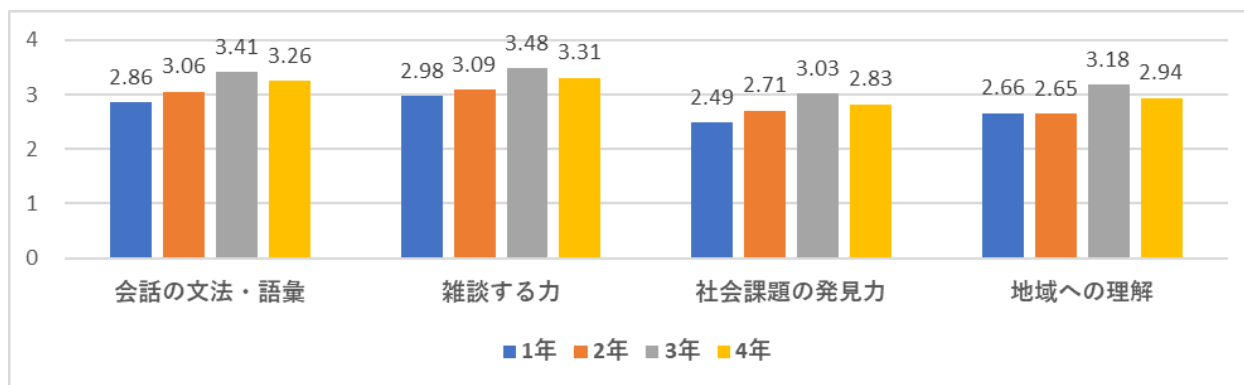


図 3-1-1 自己評価

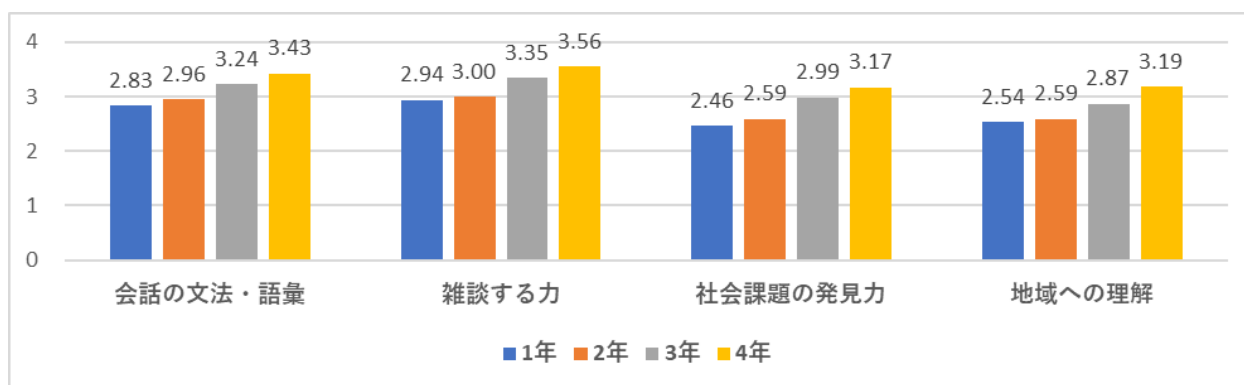


図 3-1-2 教員評価

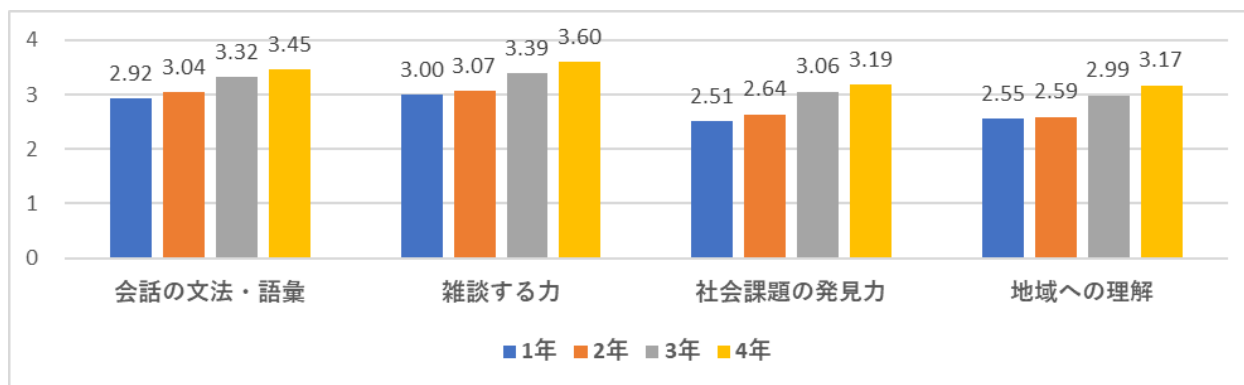


図 3-1-3 最終評価

(2) 尺度別評価

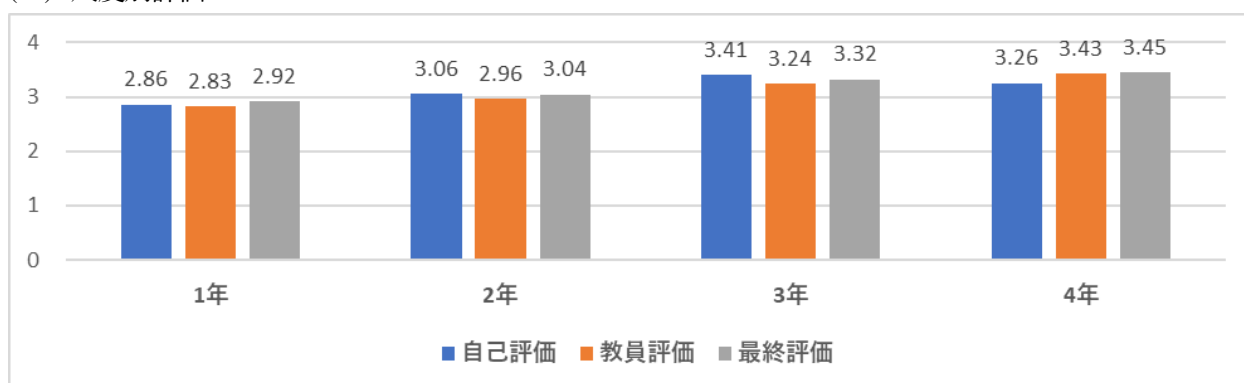


図 3-1-4 会話の文法・語彙

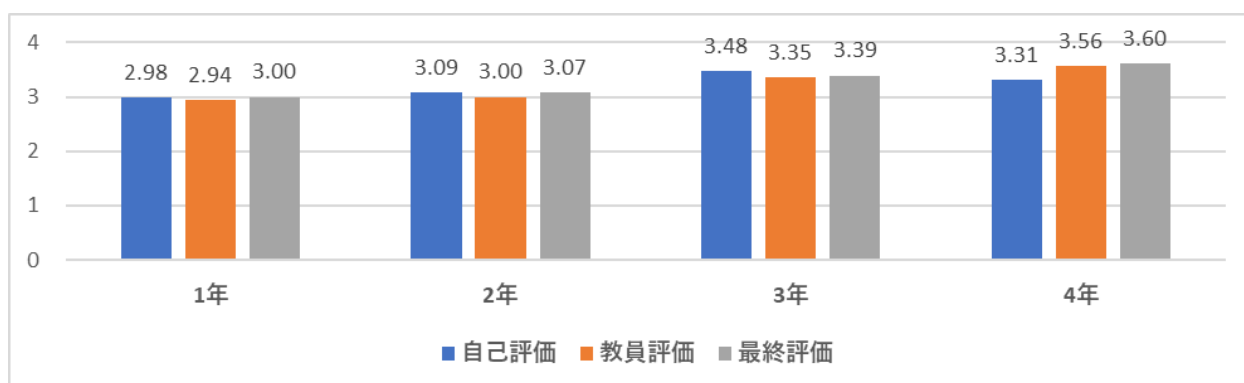


図 3-1-5 雑談する力

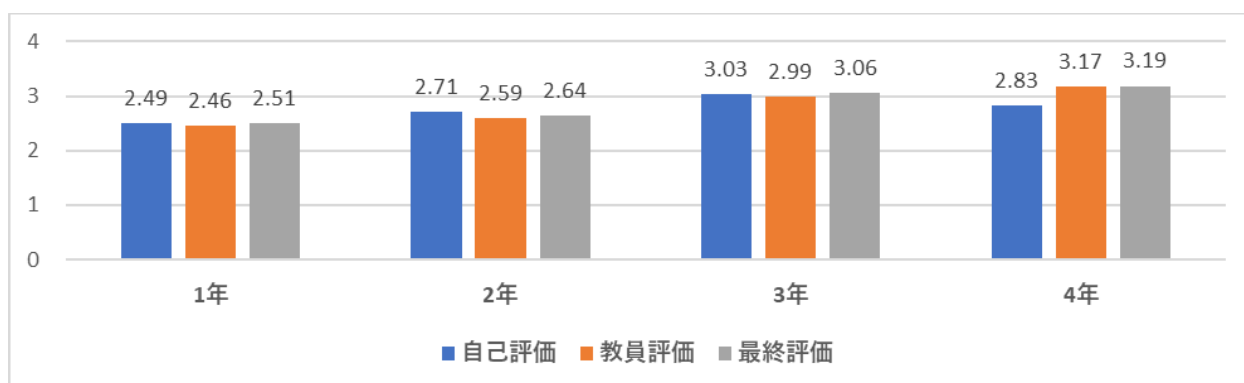


図 3-1-6 社会課題の発見力

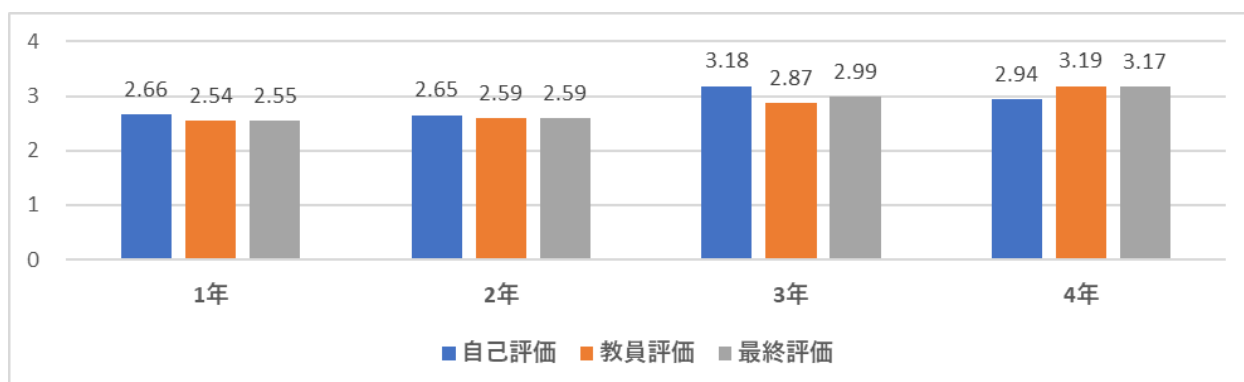


図 3-1-7 地域への理解

(3) 入学年度別（最終評価を使用）

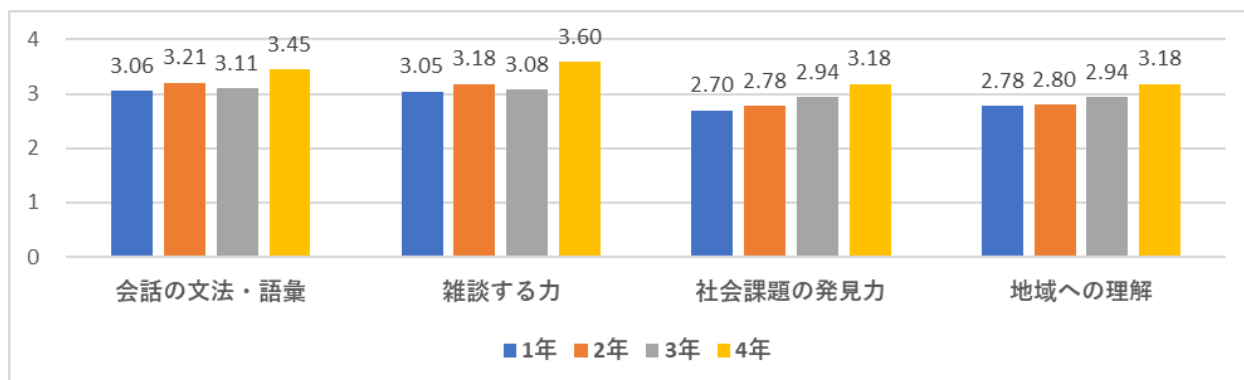


図 3-1-8 2021 年度入学（1 年⇒2 年⇒3 年⇒4 年）

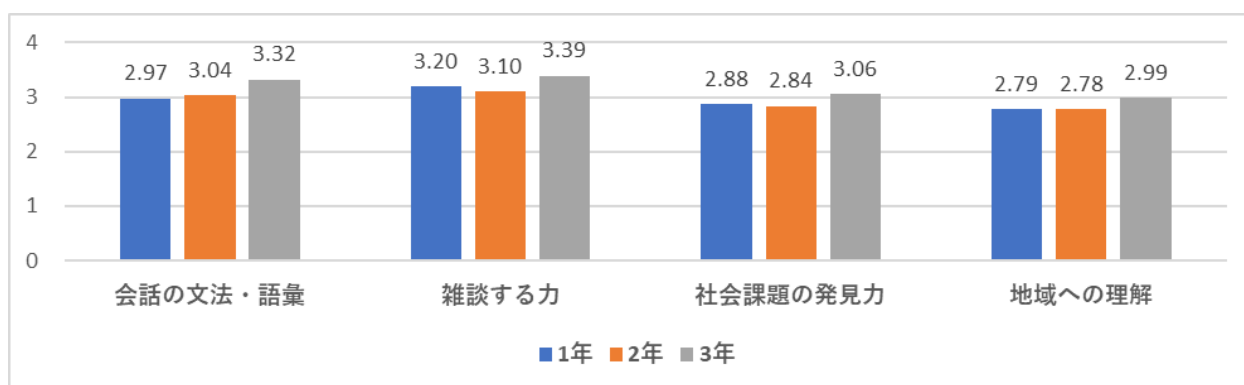


図 3-1-9 2022 年度入学（1 年⇒2 年⇒3 年）

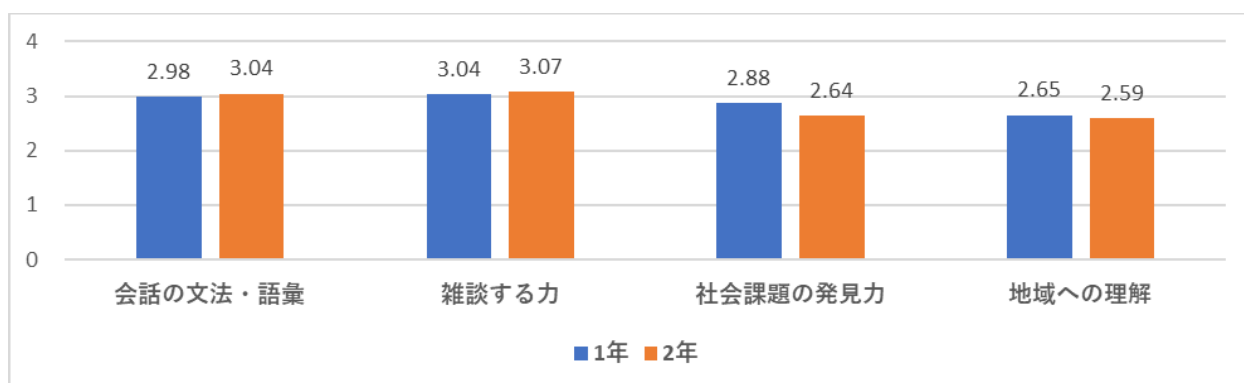


図 3-1-10 2023 年度入学（1 年⇒2 年）

3-2. 人間健康学科

特徴の記述	4	3	2	1	0
健康の理解と実践	健康に関する基礎知識を修得し、健康の大切さを理解した上で、自ら健康的な生活を実践したり、周囲の人に健康の意義を伝えたりすることができる	健康に関する基礎知識を修得し、健康の大切さを理解しているが、自ら健康的な生活を実践するには至っていない	健康に関する基礎知識の修得は不十分だが、健康の大切さは理解している	健康に関する基礎知識の修得が不十分で、健康の大切さの理解に欠けるが、学ぶとする態度はみられる	左記に該当しない
豊かなコミュニケーション能力	他者と円滑に対話することができるが、考え方が異なっても理解し、尊重することができる	他者と対話することができるが、異なる考え方を持つ人への理解が十分ではない	他者と対話することを避けがちだが、特定の人は対話ができる	他者と対話することができないが、対話の大切さは理解している	左記に該当しない
自主的な課題探求	自主的に課題を探求し、そのテーマについて論理的に話し、文章にまとめ、議論や発表ができる	自主的に課題を発見し、そのテーマについて分かりやすい表現で話したり、文章にまとめることができる	会話や文章で分かりやすく表現することはできないが、自主的に課題を発見できる	自主的に課題を発見することはできないが、その大切さについては理解している	左記に該当しない
地域への理解	地域の社会・文化・歴史を理解し、地域の大切さを理解した上で、地域の特性や課題について議論や発表ができる	地域の社会・文化・歴史を理解し、地域の大切さを理解している	地域の社会・文化・歴史についての理解は乏しいが、地域の大切さは理解している	地域の社会・文化・歴史についての理解は乏しく、地域の大切さも理解していないが、地域を知ろうとする態度はみられる	左記に該当しない

(1) 全体評価

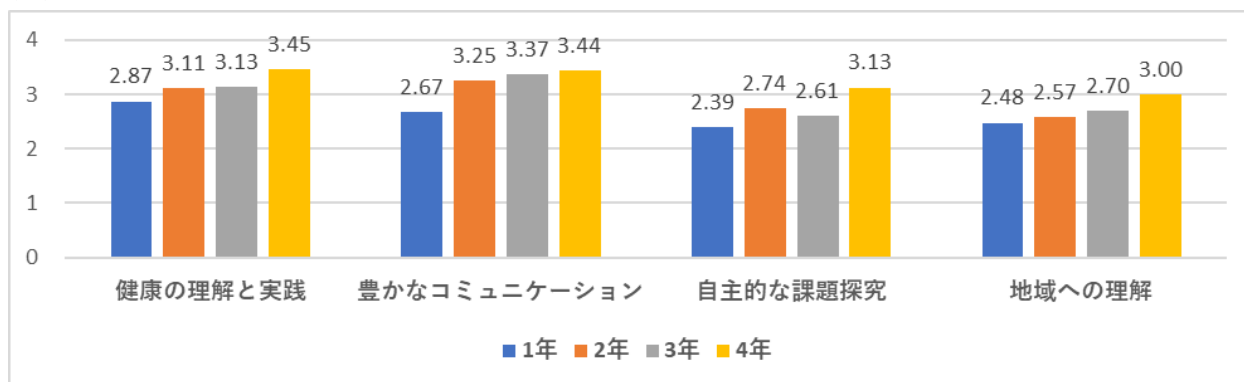


図 3-2-1 自己評価

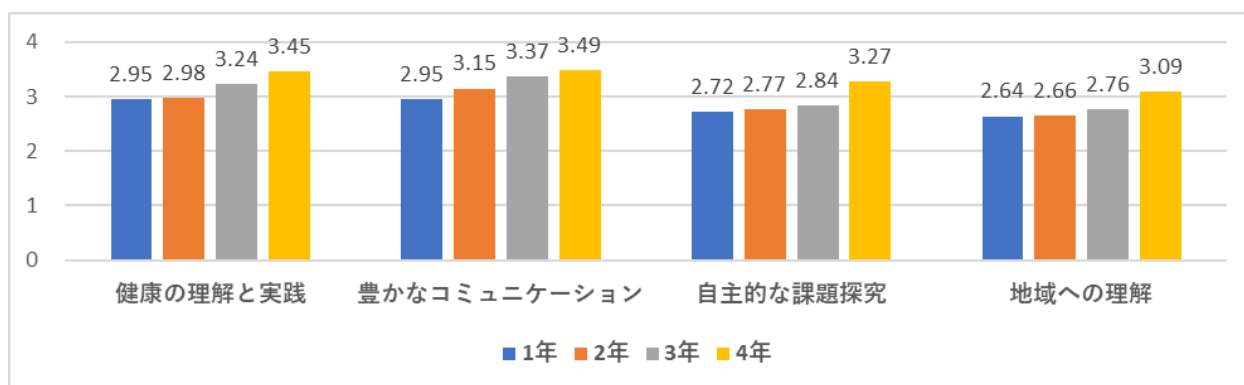


図 3-2-2 教員評価

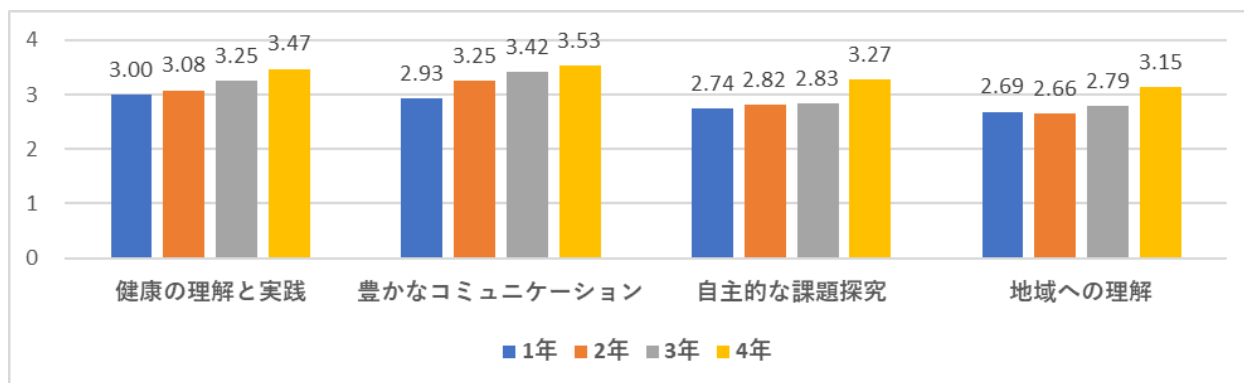


図 3-2-3 最終評価

(2) 尺度別評価

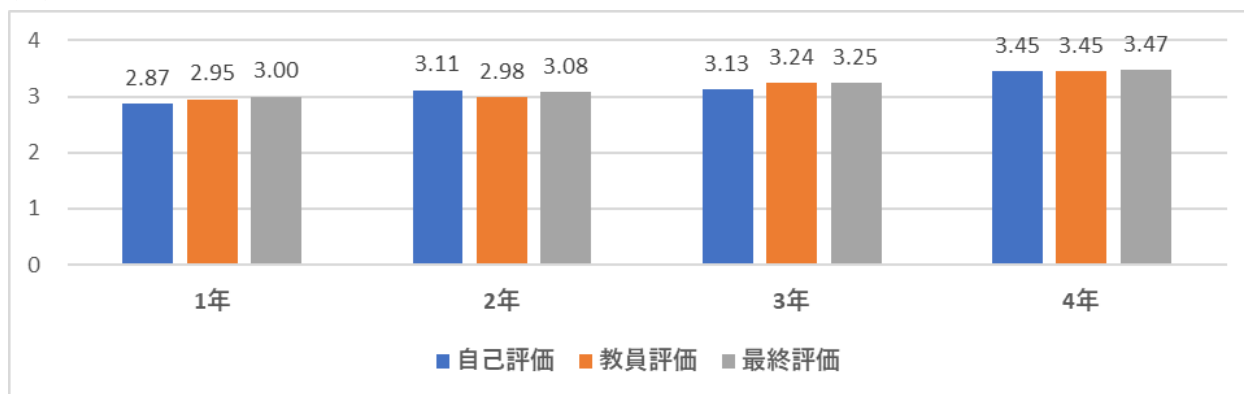


図 3-2-4 健康の理解と実践

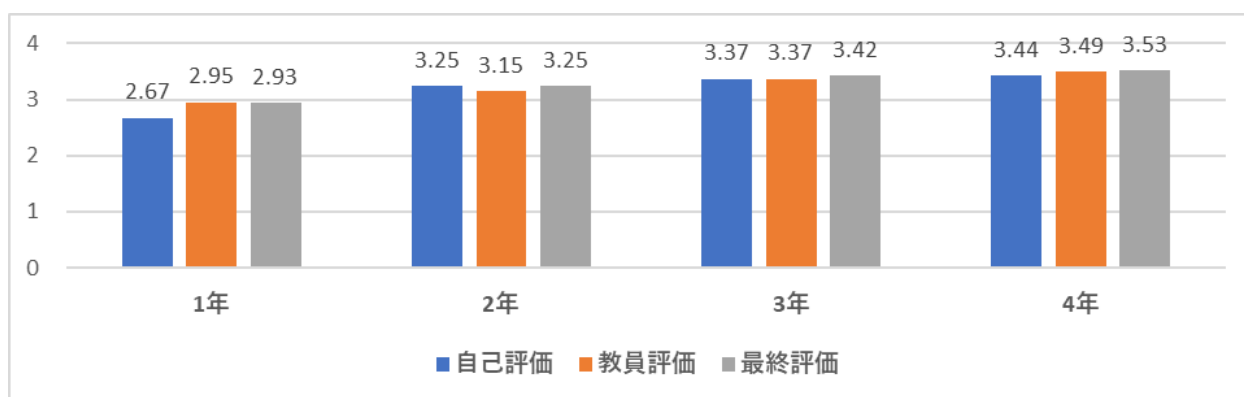


図 3-2-5 豊かなコミュニケーション

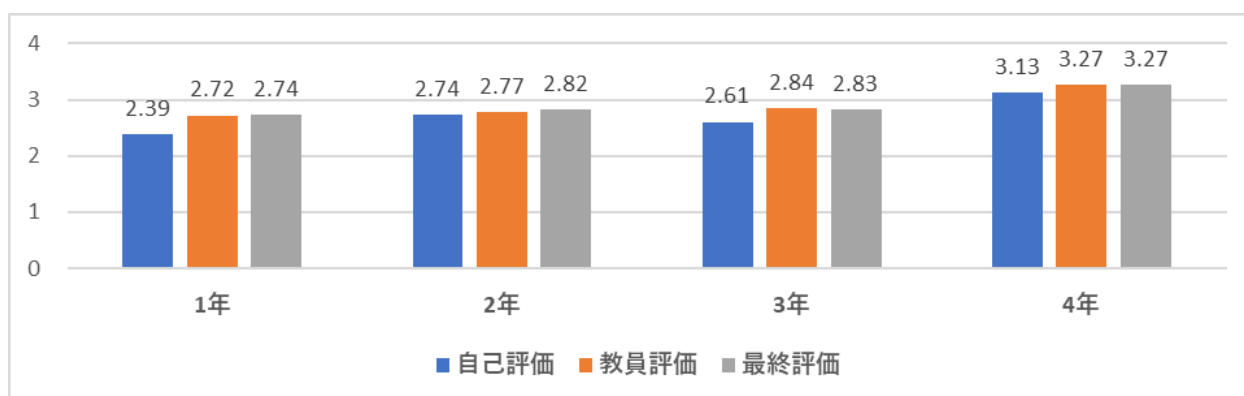


図 3-2-6 自主的な課題探究

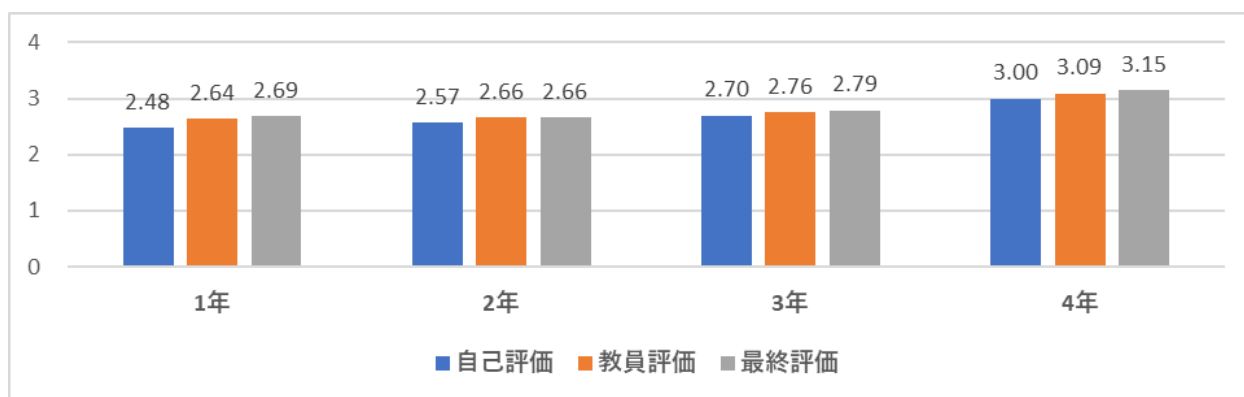


図 3-2-7 地域への理解

(3) 入学年度別（最終評価を使用）

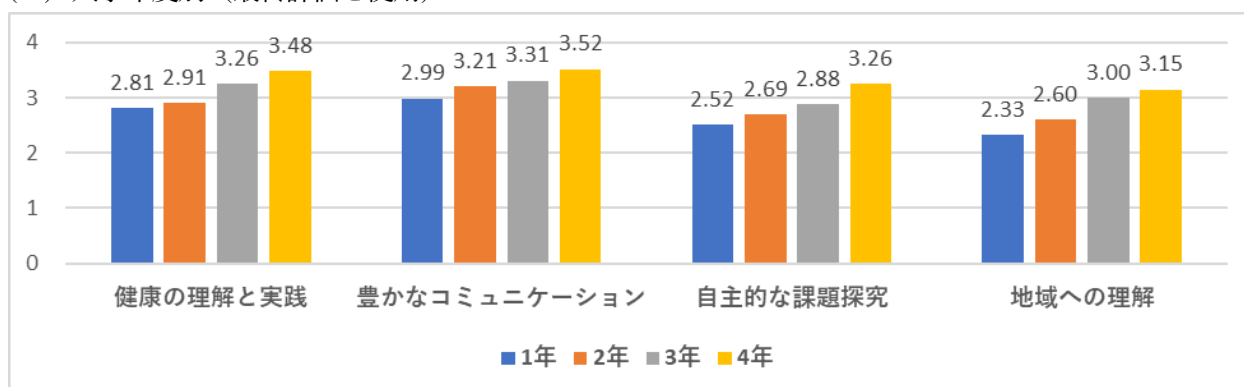


図 3-2-8 2021 年度入学（1 年⇒2 年⇒3 年⇒4 年）

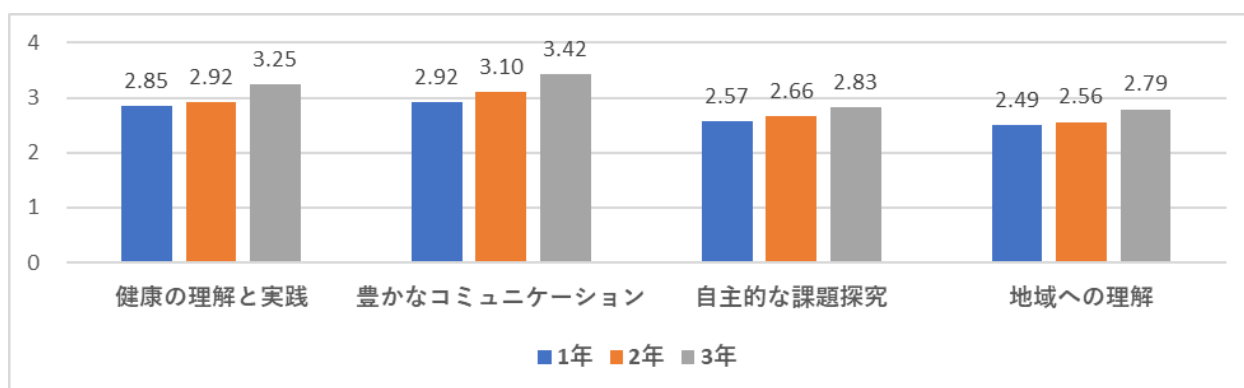


図 3-2-9 2022 年度入学（1 年⇒2 年⇒3 年）

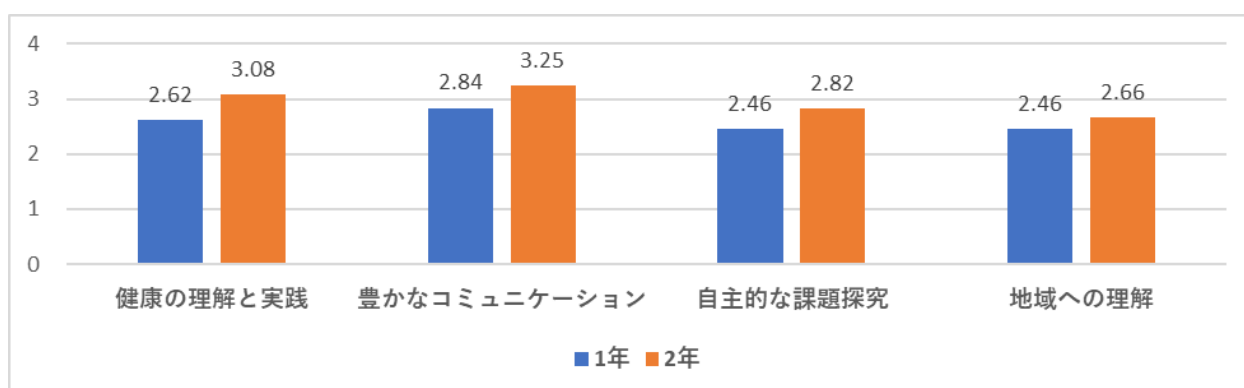


図 3-2-10 2023 年度入学（1 年⇒2 年）

3-3. 看護学科

尺度	特徴の記述	4	3	2	1	0
相手を尊重したコミュニケーション		相手の話を十分に聞いて理解することができ、自らの意見も分かりやすく説明し、さらに議論できる	相手の話を聞いて自らの意見をわかりやすく述べるができるが、十分な議論ができない	相手の話を聞いて自らの意見を述べるができるが、わかりにくい点がある	相手の話を聞くことはできるが、自らの意見を言えない	左記に該当しない
自主的な課題探究力		自主的に課題を探究して論理的に発表し、課題解決に向けて行動できる	自主的に課題を探究し、資料をもとにまとめることができる	自主的に課題を発見し、テーマについて調べることができる	自主的に課題を発見しようとする意識があるが、行動できないことがある	左記に該当しない
他者と協働したグループ活動		グループ活動が円滑にできるようにリーダーシップ・メンバーシップを発揮し積極的に取り組むことができる	グループ活動において、自分の果たす役割を積極的に取り組むことができる	グループ活動において、与えられた役割を果たすが、消極的である	グループ活動に消極的であり、役割を果たすことができない	左記に該当しない
地域特性を踏まえた健康の理解		地域における特色や健康特性について理解し、健康問題の解決に向けた考えを述べるができる	地域における特色や健康特性について理解し、議論することができる	地域における特色や健康特性について、大まかに理解している	地域における特色や健康特性の理解が乏しい	左記に該当しない
基本的な看護実践能力		科学的な根拠に基づき、ケアの受け手に適した個別的な看護を実践できる	標準的な看護に基づいた看護を助言なしに実践できる	標準的な看護に基づいた看護を少数の助言を得て実践できる	基本的な看護の方法は理解しているが、実践には多くの助言が必要である	左記に該当しない

(1) 全体評価

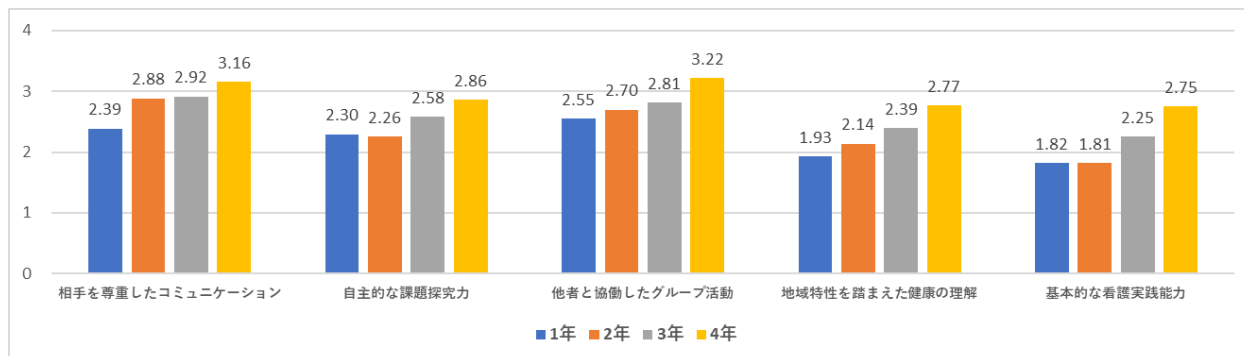


図 3-3-1 自己評価

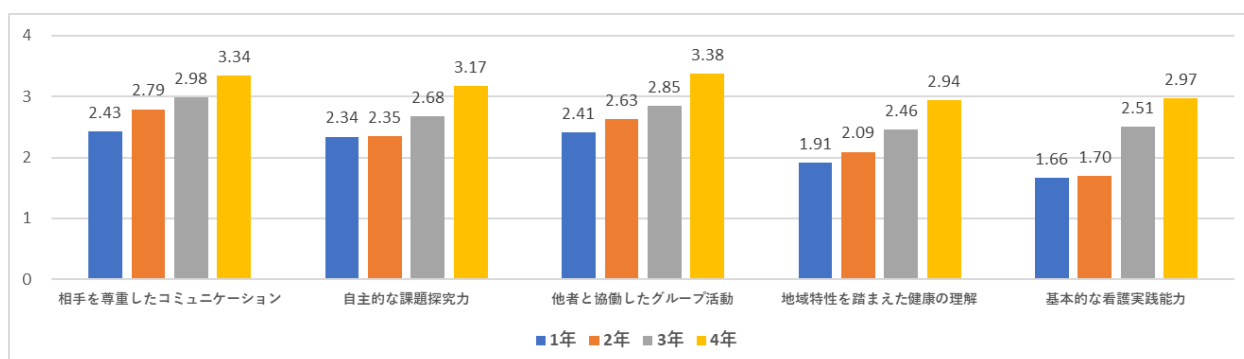


図 3-3-2 教員評価

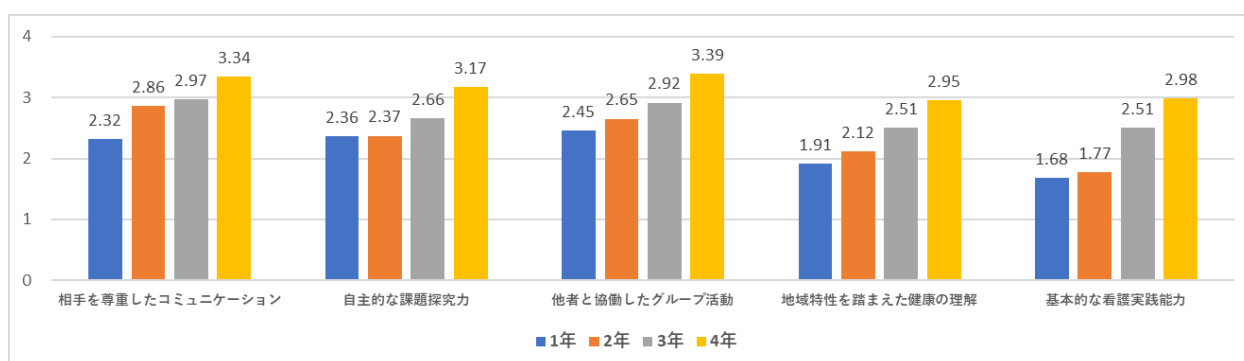


図 3-3-3 最終評価

(2) 尺度別評価

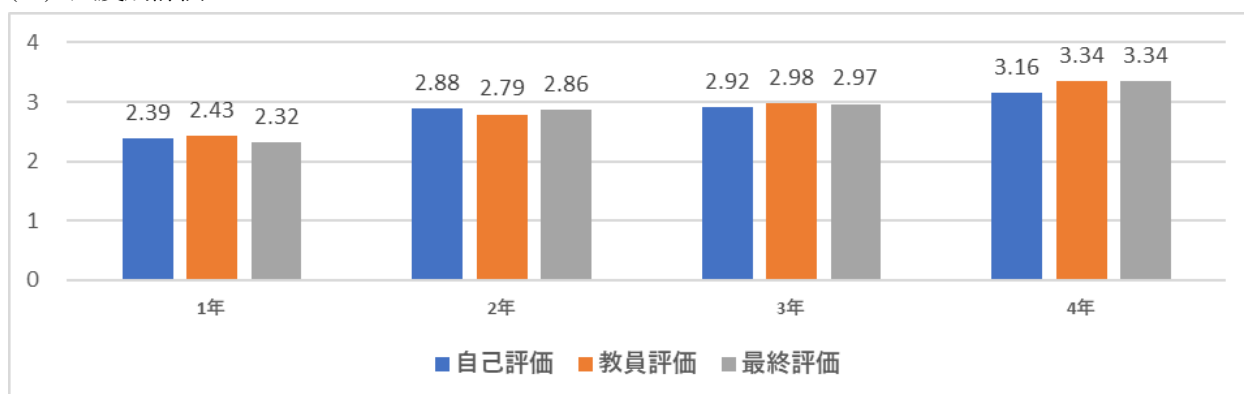


図 3-3-4 相手を尊重したコミュニケーション

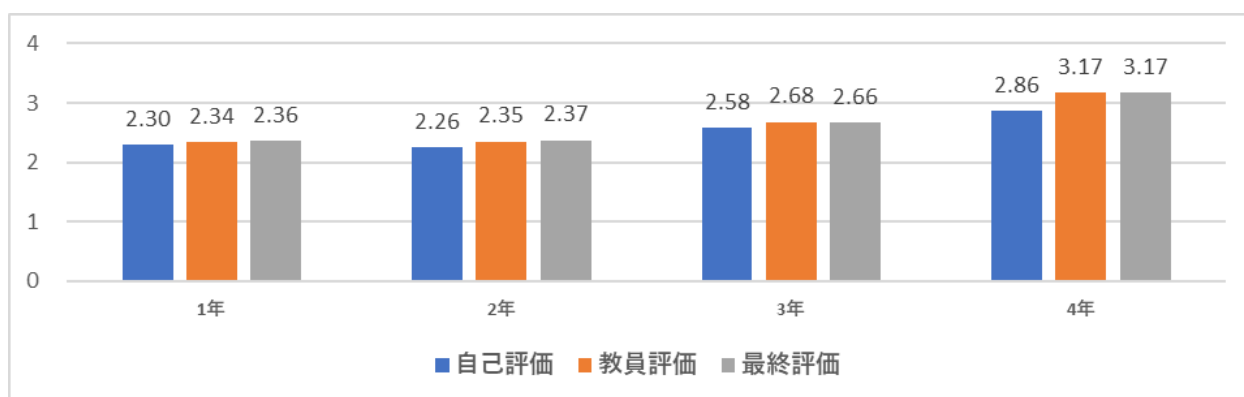


図 3-3-5 自主的な課題探究力

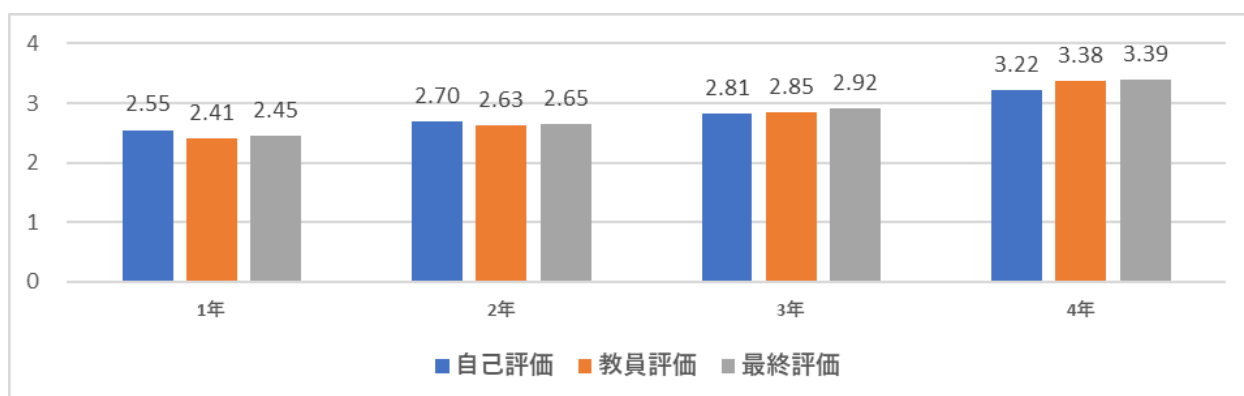


図 3-3-6 他者と協働したグループ活動

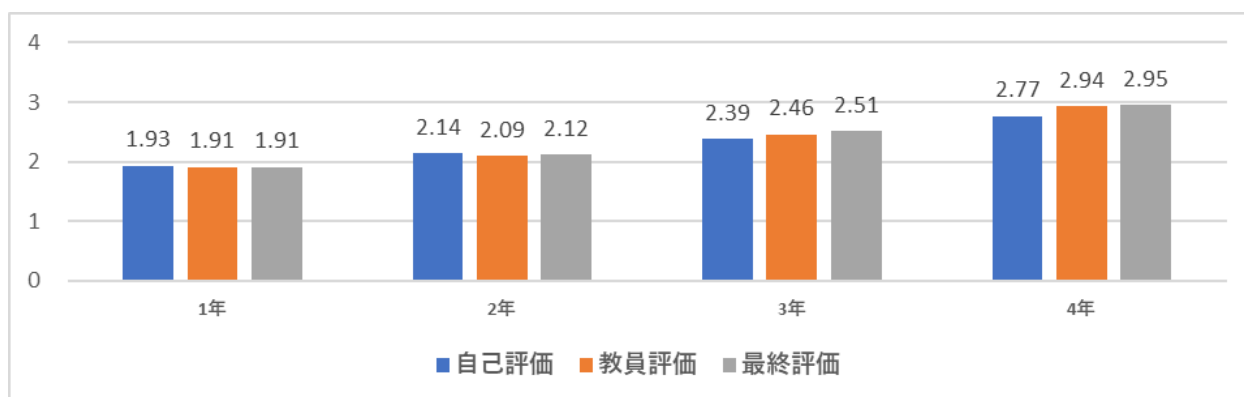


図 3-3-7 地域特性を踏まえた健康の理解

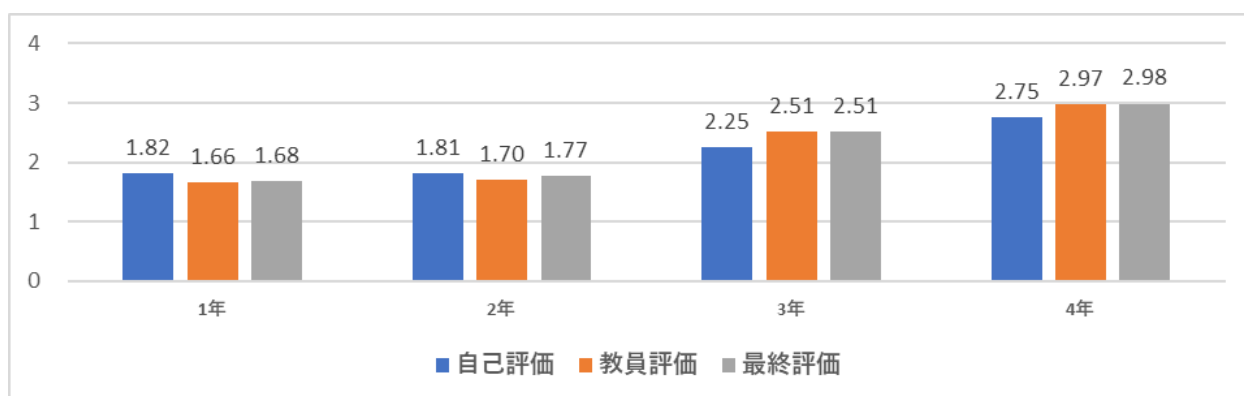


図 3-3-8 基本的な看護実践能力

(3) 入学年度別（最終評価を使用）

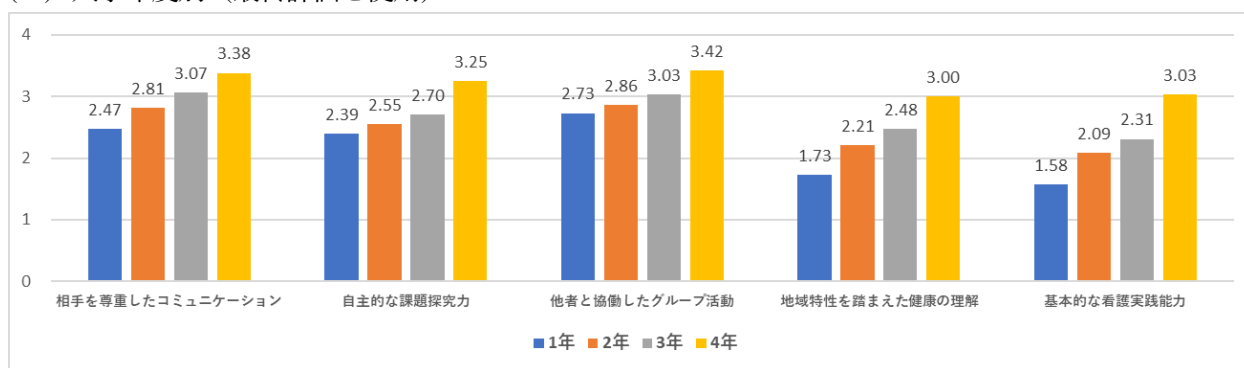


図 3-3-9 2021 年度入学（1 年⇒2 年⇒3 年⇒4 年）

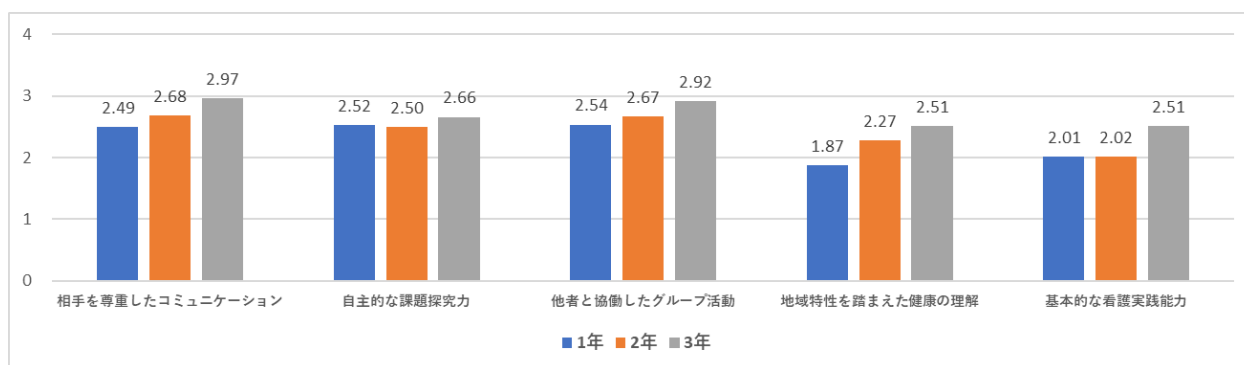


図 3-3-10 2022 年度入学（1 年⇒2 年⇒3 年）

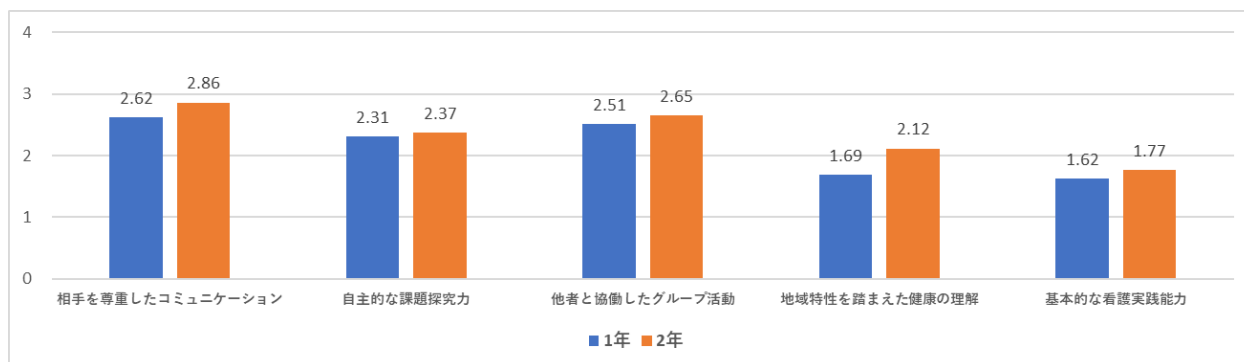


図 3-3-11 2023 年度入学（1 年⇒2 年）

3-4. 別科助産専攻

特徴の記述 尺度	4	3	2	1	0
助産実践に必要な知識の獲得	助産実践の知識を根拠ある実践へと繋げることができる	助産実践の知識で助産のメカニズムを説明できる	助産実践に必要な知識の多くを身につけている	助産実践に必要な知識が多く不足している	左記に該当しない
助産実践に必要な技術の提供	対象に合わせた個別的助産実践の技術を提供できる	基本的な助産実践の技術が助言なしにできる	助産実践の技術において少しの助言できる	助産実践の技術において多くの助言が必要である	左記に該当しない
地域母子保健の理解	地域母子保健の発展について討議できる	地域母子保健の理解をもとに助産師の役割を説明できる	地域母子保健に関する現状や課題を大まかに理解している	地域母子保健の現状や課題について理解が乏しい	左記に該当しない
助産管理の理解	助産管理における現状と課題について討議できる	助産管理の必要性と実際を説明できる	助産管理の必要性や実際について大まかに理解している	助産管理の必要性や実際について理解が乏しい	左記に該当しない

(1) 全体評価

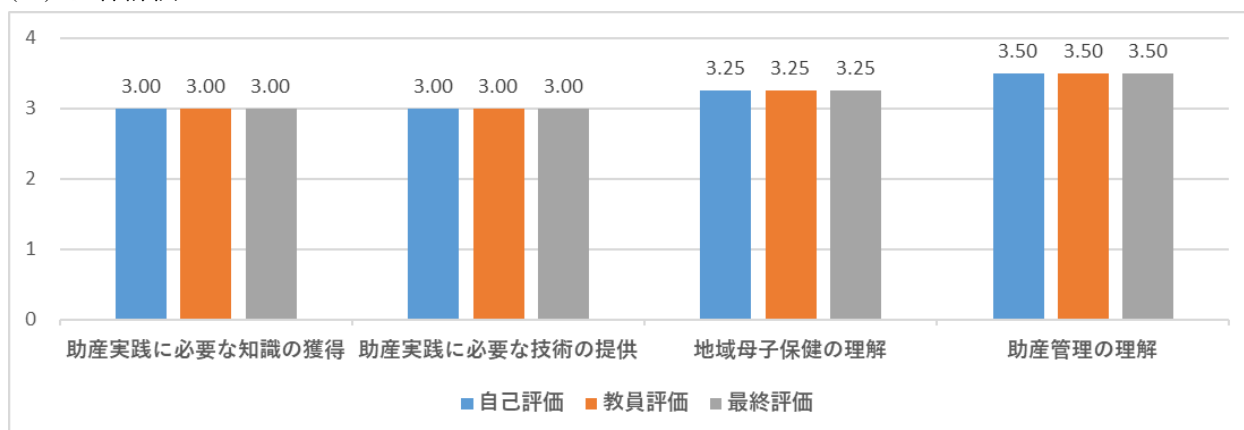


図 3-4-1 評価結果 (2024 年度入学)

(2) 入学年度別 (最終評価)

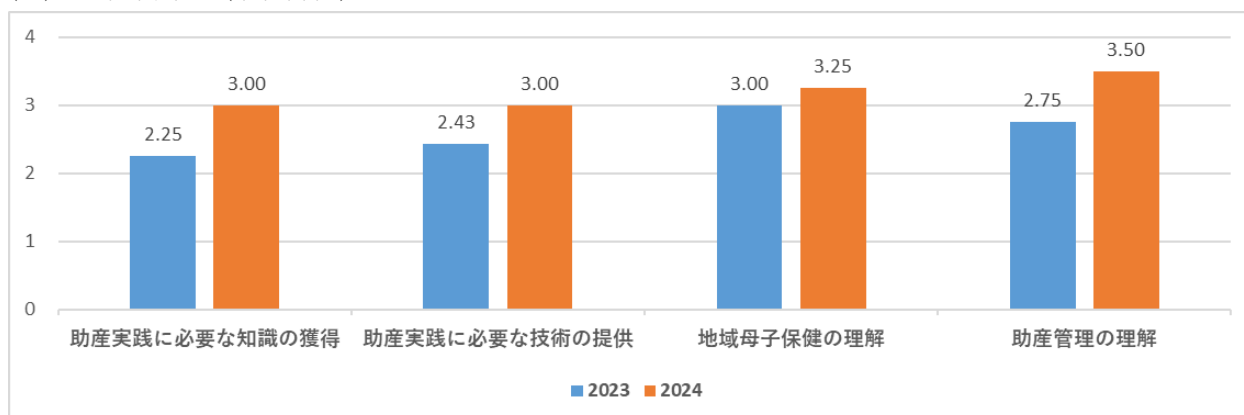


図 3-4-2 入学年度別